

(令和7年3月13日 午前9時00分 開始)

○議員（中瀬 修議員） 皆様、おはようございます。中瀬修でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本議会が開会した3月11日は、東日本大震災が発生してから14年経過した日でした。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7とも言われる揺れと大津波によって沿岸部を中心に甚大な被害が起きました。改めて被害に遭われた皆様には、心よりお悔やみとお見舞い申し上げます。

数々の震災等によって、尊い多くの命、住居や様々な施設を奪った自然災害の猛威を改めて強く感じています。地震大国日本に住む私たちは、今後いつ起こりくるや分からない南海トラフ大地震も警戒しながら、日頃からの防災行動力の強化、ハザードマップの共有と減災対策、避難場所、避難経路の確認、備蓄用品の準備など、命を守ることを最優先とした取組をしていかなければならないと感じております。

さて、このたび、川南町議会議員選挙にて皆様の御支援を賜り、2回目の当選をさせていただきました。今回の選挙戦で頂いた声の多くは、正しい判断のできる議会になってほしい、町政を停滞させた川南町議会の責任は大きい、しっかりと目を開いて、町民のためになる議論と判断をしてほしいなど、町民の代表としての責任を果たしてほしいという切なる願いを各地区で頂きました。

私は、そのような思いを持つ町民の方々に、再びこの場に送り出されました。私たちは過去に戻ることなく、川南町を前へ進めていく姿勢を見せなければならないと思っております。皆様の声の代弁者としてお役に立てるよう、町議会を、川南町を前へ進めるためにも、誠実に精いっぱい務めてまいります。そして、全ての世代の皆様にとって、住みよい川南町だと言っていただけるまちづくりを目指していきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、前置きが長くなりましたが、先日行われた宮崎町長の町政運営方針に対して、通告に従い質問をさせていただきます。

昨年8月に町長になられて7カ月、町内でも様々なことが起きました。町長になられて思いどおりに行かないことが多かったのではないのでしょうか。人事すら思いどおりに行かないなど、大変な御苦労があったことを存じ上げます。

本定例議会では、令和7年度に向けた宮崎町長初の骨格予算が出されました。まずは、しっかりと審議させていただきたいと思います。

今回は、町政運営方針の中から、大きく3つのことについてお尋ねさせていただきます。

まず最初に、町内4団体のトップ会談の具体的な方向性についてお尋ねします。

J A 宮崎尾鈴地区本部、川南町商工会、川南町漁業協同組合、川南町観光協会と、それぞれの分野が力を合わせ、民間活力を最大限に生かしたまちづくりを推進されたいとの発言がありました。川南町が明るく希望にあふれる町になるためには、とても重要な会議であり、とても意義のある取組として賛同します。

この会議で、まず何を話し合っていくのか、できればもう少し具体的に説明していただきたいと思います。

例えば、第1回目に、いつ、どの時期に行うのか、この会議に招集を予定されている方の人員やその他の構成、内容等が現時点で分かればお願いしたいと思います。それらを含め今後町長が思い描く、川南未来予想図につながる、何らかのお話があれば、併せてお伝えください。

以下に関する質問については、質問席からさせていただきます。

○議長（中村 昭人議員） 傍聴人の方に申し上げます。議会内では脱帽の上、傍聴していただくようよろしく御協力をお願いいたします。ありがとうございます。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の御質問にお答えします。

J A 宮崎尾鈴地区本部、川南町商工会、川南町漁業協同組合、川南町観光協会の4団体の代表職である方々と、団体ごとの現状報告をはじめ、それぞれの課題やその対策をどう講じていくのかなど、情報共有や意見交換を主な目的とした会議を行ってまいります。

御承知のとおり、当該4団体は、本町の基幹産業であります農林水産業と密接に関わる2つの団体が含まれております。とともに、その生産、加工品等を取り扱う商工業者のための基幹である町商工会をはじめ、食やその生産現場等を観光という切り口で誘客を図る観光協会など、多様性に富んだ組織です。

また、それぞれの団体は卓越した専門性も有しております。加えて、その他、町内には、県内より全国でも有名な民間組織が存在しますので、今後はそのような団体等の力を結集したまちづくりを推し進めたいと思っております。

なお、私は町長に就任以来、具体的に進めている民間活力を活用したまちづくりの事例の一つに、水産資源を活用した新たな価値創造に関する連携協定を、昨年12月に締結し、通浜地区におけるブランド魚の確立、未利用魚の利活用、加工品等の開発などによって漁業者等の所得向上に寄与する取組を行っております。

御承知のとおり、この連携協定は川南町、川南町漁業協同組合、川南町商工会、一般社団法人川南町観光協会及び川南まちづくり株式会社という業種を超えた町内5者による協定であります。

また、ブランディングアドバイザーとして、本町が誇る株式会社ゲシュマックの社長、山道洋平さんや、高鍋町の人気店イタリアン食堂T a w a r a の代表俵哲也さんを招聘し、現在、未利用魚であるサメの商品化の研究を行っております。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） いろいろな団体のそれぞれが持った力を結集して、いろいろとこれから進めていきたい。その手始めに水産業というところを、新聞報道等でもしっかり見させていただきました。とても有意義なことだと思っております。

いわゆる、世間でいうSDGs的な部分で、廃棄されるものもうまく利用していけば、付加価値が高くつく、そういうことにもつながるかなと思います。決して水産業だけでなく、この基幹産業といわれる農業、それからいろんな畜産業、そういうところにもつながることかと思えます。

この事業を通して、今、時代としてはインターネットの時代ですので、特に大きく世界にも発信できていく可能性もあるかと思いますが、そのあたりはどのように町長お考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

広く発信ということですが、今、川南町のふるさと納税、これが非常に順調に推移しています。このことに関しては、いろんなメディア、広告媒体も使って活用して行っております。そういった形で、町内の事業者の方々の、御自分は商品提供という形になりますけど、いろんなところに情報が発信される。これは非常にすばらしい、好ましいことだと思っています。

ぜひ、ふるさと納税の取扱事業者を増やし、広告料も運送料もかからないんです、その方には。ただしっかりと品質、決められたものを送る、これが一番大切じゃないか。今まで未開発であったいろんな食品を加工する、またそれを、付加価値を高めて商品化するという中では、一番できるのはふるさと納税、活用が一番ふるさと納税じゃないかなと思っています。

ただ、町としても、ふるさと納税でトラブルとか、仮にクレームとか、そういうものが発生したときというのは、川南町の信用をなくしますので、しっかりとそのことについては対応を図っていききたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） ありがとうございます。とても簡単な話ではないと思っております。非常に、壁の向こうといいますか、川南町の向こうには、いろんな消費者がお待ちしている。その中で、いいものをまずは届けないといけない。そういうところでは、今後いろんな課題を一つ一つクリアしていく。そういうことが大事かなと思います。そういう中で、こういう皆様の各種団体の協力というのは、とても大事かなと思います。

そこで、次の質問にも重なっていきますが、偏った人たちの集合体ではいけないんじゃないかと、いろんな若い人、発想のある、力のある人たちを巻き込んだ、こういう4団体を含めた会議というところには、そういう人材も必要じゃないかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

トップ会議、会談というのと、もう一つ、川南町経済推進会議というのを、2つの組織で、今回、経済推進会議に関しては、条例案を出させてもらっています。若い人の、いろんな方々の意見ということは、逆にその経済会議の中で進めていきたいと思っています。

各団体は、一番の存在意義というのは、それぞれの団体の会員の所得向上、それから安定した経営、そういったことに団体のトップとしてしっかりと取り組んでいらっしゃいます。そういった方々と、いろんな問題を共有することによって、新たな次の施策、そういったことも含めて、いろんな腹を割った意見交換をやりたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 今、キーワードの中に、川南町経済推進会議というところが出てきて、そこで若い世代のいろんな斬新なアイデアと、それから、まちづくりのヒント、そういうところを拾い上げながら、今後の政策提案、政策実現というところに結びつけていきたい。

やはり川南町で私も生活している中で、やはり所得向上というところが一番重要な部分になってくる。また、基幹産業等、1次産業、若しくは生産業の人たちの安定した経営というところにもつなげるためには、そういう一つの自分の畑だけではなくて、ほかの事業者との連携といいますか、コラボレーションというか、そういうところが重要なことにもつながるかなと思います。

この経済推進会議というところに、若い世代という、単純な若いというところのあたりを示すのかなというふうに思っておりますが、どのようなお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

議案第5号川南町経済推進会議設置条例の第1条「設置」にありますとおり、本町の各産業団体等で活躍する若い世代の意見を広く聴取し、官民一体となり強い地域経済づくりを図るとともに、産業振興施策を構築するため、この目的を実現する。

いろんな方々の、私一番感じたのは選挙期間中、いろんな方々に、町民の方々とお話をさせていただきました。私の年齢に近い人というのは、ある程度の考え方も、思いも共有することができる。でも、全く若い世代の方々は、基本的に発想が違うんです。私は、そういった若い人の感覚で、川南町の地域経済をどう活性化させるか、そういった議論の場をつくりたいと思っています。

私も年齢的に考えると、今までの考えが凝り固まっているところもあるんです。でも、そういった若い方の意見というのは、もう想像もできないぐらい。先ほどインターネットとかという話も出ましたが、社会も変わっている。ですから、そういった若い人たちの考えを川南町に生かす。そういう組織でありたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） そういう若い人たちを取り囲む中に、もちろん必要とあらば、学生さんの声とか、あと、それぞれの働いている場所等からの若い人たちの推薦だったり

とか、若い世代で結婚している人たち、また、私たち健常で特に問題なく生活できている目とは違う、身体に障害を持っている人たちからの意見というところも重要になってくるのかなと、こういうところにも、経済につながる何かがヒントとして生まれてくるんじゃないかと思います。

その中で、どのような形、いわゆる規模、人数とか、例えば各地区で行うのか、本庁に一つにまとめて一気にやっていくのか、そういうところ、あと会議の日程等、もし何か考えていることがあればお答えください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

まず、経済推進会議、中心はやはり町内の若い人を中心に、それから各団体からの自薦、他薦、団体からの、そういった中で50歳未満の方々を10名ほど、約です、選出していただいて、それから逆に、こちらから必要と思う場合には、こちらからもお願いすることもあると思います。

ただ、その中で、町外とか、それから様々な方々のというのは、障害者の方々もというお話もありました。その中のことについては、会議の中にそういった方がオフィシャルな形で参加する、そういった方々との意見も伺う、そういった組織にしたいと思っています。

基本的には町内在住の、また町内で働いて、就業されている方々を中心に行いたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 川南町で生活していく上で、本当に大事なこれからの推進会議、経済推進会議だと思っております。

本当に誰一人取り残されることもなく、どの世代も住んでいい町にしていきたいなと思っております。とても期待感が大きい会議だと私は思っております。できるだけ多くの若者が、川南町の未来を創造していくための会議をぜひ、今後成功させていただくようなスキルを見せていただきたいなと思っております。

いろいろ、私も最初言ったように、インターネット等で行くと、この川南町の中にももしかしたら、すばらしいインフルエンサーと、そういうところもあるかもしれませんし、そういう方とつながっているという方もいらっしゃると思います。そういうところも積極的に取り込みながら、情報発信というのを今後ともお願いしたいなと思っております。

併せて、この川南町の魅力というところを発信していきたいというところも、この経済会議から生まれてくるかと思えます。この川南町の最大の魅力について、以前も町長の9月議会等でお話がありましたが、改めて今の最大の魅力ということについて、町長のお考えをお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

魅力あふれるという川南町があるべき姿、これは一言ではない、福祉であったり、教育であったり、様々な、川南町で先ほどおっしゃった、私が一番考えるのは、町民の安定し

た生活、これが一番じゃないかなと思っています。

そのためには、それぞれの事業者の所得向上、それから住環境であったり、働く場であったり、様々な要素が含まれてくると思っています。ですから、そういったものを総合して、川南町に本当に住んでよかったな、先ほどおっしゃいました、誰一人取り残さない。町民一人一人が川南町に住んでよかったな、幸せを感じる、そういったまちづくりが魅力あるまちづくりだと考えています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 確かに、一言でこの川南町の魅力をと云われても、なかなか大きすぎるところの質問でした。

私的に考えている、本当に川南町に住む人たち、まずそこが本当に町長もお考えのようにすばらしい人材だと、魅力だと思っています。あとは、自然豊かな環境だったり、全国有数の食料生産基地でもある、などなど、あと最も災害的に一部沿岸部分もありますが、高台が中心となっている川南町の災害が少ないエリアということも、本当に一つの魅力になってくるかなと思っています。

そういうものを、今後、先ほど申しました推進会議等でも、どんどん発信されて、意見が出されてくると思いますし、そういうところを発信しながら、今後につなげていただければいいかなと思っています。

そこで、外にいろいろ発信していく中で、人口減少とか、少子化対策というところのキーワードも、町政運営方針の中に出ましたが、その中の一つのキーワードとして、移住支援アドバイザーという言葉も出てまいりました。地域おこし協力隊の方々が移住支援コーディネーターという形で活躍されておりました。その移住支援アドバイザーという新たなポジション、このコーディネーターとはまたちょっと違う感覚で受け止めればよろしいのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 現在、川南町で地域おこし協力隊員が移住相談の窓口、自分たちの経験を基になさっていますが、私は移住アドバイザーという組織は、つくりたいと思っている組織は、来ていただいた方々がそれぞれいろんな課題を、来られてお持ちになるんです。そういった方々のしっかりとしたサポート、相談できる、これについては、商工会議所、先ほどのトップ会議でもそうなんですが、各団体の方から御協力いただいて、連携、御協力いただいてしっかりと、川南町にお越しになった方々に対する具体的なサポート、支援、農業であれば、自分が携わる農業に対しての、どうやったら収穫を上げられるのか、そういったノウハウ等も含めて、それから逆に居住関係とか、それから地域のつながりとかというものも含めて、各方面、一つの方面だけじゃなくて、他方面からその人にしっかりと寄り添ってサポートできるような組織をつくりたい。

これはトップ会議の中で各団体等をお願いをし、令和7年度以内にしっかりとそういった組織をつくり上げたいと考えています。

お見えになった方も、いろんな事情があつて、また別の場所にといいのもありますので、それが何なのかというのをしっかりとサポートする。一番、よそから来ていただいた方々が喜ばれるのは、親身になって相談をできる方、地域おこし協力隊というのは、自分たちが川南町を目指してという、その切り口はそこでいいと思うんです。川南町の魅力も伝えることができるし。でも実際にお見えになった方々のサポートというのをしっかりと支援できる組織をつくらないと、来た人は先ほど言いました、出ていく可能性も必ずあるわけです。そういったのを相談できるような、多岐にわたる、そういった支援体制をつくりたいということです。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 連携を取りながらというところで、先ほど一番最初にもありました各種団体等、それから町内にはいろんな任意団体というところもあるかと思います。

もちろんその地区、地区に住めば、その地区のつながりというところも、とても大事になってくると、そういうところにも、こういう地域アドバイザーというところは下りてくるのかなと、いわゆるお願いされるのかなと思います。

やはり以前ではあったところが、最近は少なくなっているのかなというのは、おせっかいすぎる方々というところが少なくなっている分を、もっともっと活性化して、気にかけてあげられる状況をつくっていく。

言い方は悪いのかもしれませんが、そういう隣の台所事情まで知っているような人というのは少なくなってきましたが、そういうことに、移住してこられた、若しくはこちらで生活しようと志してこられた方々に、目を向けてあげることとして考えていけばよろしいですか。

そのところで、地域、いわゆる4団体以外にも、ほかのところにも各地区公民館の館長を含めた、そういうところもお考えなのか、またお願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 支援アドバイザーというのは、一番大事なものは、その方が川南町で生計が立てられるか、また、今、中瀬議員がおっしゃいました、自治、それぞれの地区のということに関しては、自治公民館長、それぞれの組織、自治公民館長のサイドで御支援ができるような形を、入植された方々、川南にお見えになった方々でも、今現在、それぞれの地区で活動をなさっていますが、一番うれしいのは、地区の人たちが温かく迎え入れる。

そして、その人たちに対する寄り添ったつながりというのが、非常に体験として、よかったというお言葉もいただいています。

ですから、町民、それからいろんな各団体、全てがしっかりとその人をサポートする。このことが出来上がれば、川南町にお越しいただいた方々が、いろんな夢破れて、諦めて、またほかの地方というのがなくなるんじゃないか。

細かなことまで、専門分野はそれぞれの団体で、そういった専門の知識の方がいらっし

やいますので、そこにお任せしたい。でも、それ以外の生活に関することに関しては、そこはまた諮っていきたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 人口が、これからどんどん日本の問題でもあります人口減少とか、川南町でも本当に人口減少、高齢、少子化の問題というところに、このような思い切ったといいますか、手厚い支援をしていただくような支援アドバイザーといいますか、そういうところを置いていただけるというのは、とても移住者等には心強いかなと思いますし、逆に私たちもどのように関わっていけばいいのかというところにもつながっていくかと思いますので、こちらのほうの確立というところは、できるだけ早急にさせていただけるといいかなと思います。

それでは、次の質問に入ります。現在、最初の冒頭の話もしましたが、災害がとて多くなってきました。そこで、川南町でも昨年8月に大きな地震がありましたし、その後のいわゆる風水害、そういうところでの一時的ではありましたが、大変な思いをしたというところにあります。町長がお考えになっている自主防災組織、そこについて質問をさせていただきたいと思います。この自主防災組織、もう少し具体的な説明をお願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 今現在、自主防災組織は町内に2つ組織されています。通浜、それから伊倉、伊倉のほうは、今、休止状態です。

私、町長になってから、災害に遭われた方々のお話を伺う機会がたくさんありました。その中で一番感じたのは、人ごと、人に頼る、これでは大きな災害になる時は無理なんです。人に頼る。72時間という3日間は、自分の力で、地域の力で自分たちを守る。それが全てじゃないかなと思っています。

今回、まだ川南町は自主防災組織というのが、先ほど言いました2つしか編成されておられません。できるだけ地域は地域で守る。自分たちは自分たちで守るという、その思いを形にしていきたい。

先ほど言った基本的に、災害に遭われたところは、行政の職員もそれぞれ被害に遭うわけ。災害に遭うわけ。能登町の町長がおっしゃいました。

夕方、4時過ぎに地震が発生した。その中で通常であれば5分で役場まで行けるんだ。ところが町長も道路決壊等で45分以上かかった。役場について職員がっていう中では、その夜までは3分の1に満たない、30%に満たない人しか来れなかった。2日目になると、各地区から、自治体から応援、協定書を結んでいますので、どこどこが災害に遭ったときには、仮に県内で行けば、ほかの市町村から職員が応援に入ります。そのときに初めて行政として行動が取れるようになった。これが現実。

ということは、自主防災組織というのを組織して、その中で1日目、2日目、3日目、1日、2日は自分たちの力で何としても守ろうと、そして3日目には、いろんなところか

ら支援物資も入ってきます。ですから、72時間と言いましたけれど、2日目までは48時間、自分たちで自分たちの命を守る。これが大事じゃないか。

まだ、川南町にとっては地理なものも考えれば、非常に一部、先ほどおっしゃいましたように、一部は危険なところがある。でも、地震、津波だけじゃないんです。台風であったり、線状降水帯であったりというのが、今後発生する可能性がたくさんあります。

ですから、そういったときには、自主防災組織が組織されることによって、自分たちは自分たちで、我が身は我が身で、みんなで共助、みんなで助け合う組織が自主防災組織の基本です。

すみません、ちょっと長くなりましたが、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚、連帯感に基づき、地域住民が自主的に結成する組織なんです。地域において、先ほど言いました、共助、これが起こったときからの3日間というのが大事なんです。これがなかったら、直接被害に遭わなくても万が一ということもありますので、ぜひ共助の中核をなす組織なんです。

本町においては、先ほど言いました、通浜地区と伊倉地区、伊倉地区は休止状態ですが、これ各地区に絶対に必要だと思っています。それはなぜか、先ほど言った災害については、いろんな災害があるんです。去年は台風のときは竜巻で都農町、佐土原、宮崎が大きな被害でしたが、都農町も相当な竜巻の被害が出ています。

そういったときに、みんなで、私は都農町三日月原の竜巻の後、地域の皆さんが壊れた家を整理、みんな集まってお手伝いされている、そういう姿を見させてもらいました。

ぜひ、各地区に、そういった自主防災組織をつくり、そして、自分とかが被害に当たらないときには、逆に被害に遭った地区におむすびをつくったり、お水を届けたりとか、そういったことにも生かせるような自主防災組織をつくりたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当に、こういう災害が起きたときの人と人とのつながり、地域の中での協力、共助というところはとても大事ですけど、一番最初にも言われたとおり、自助というところの重要性、自分で自分を助ける力をつける、住み慣れた地域をまず知る、自分の周辺でのことを知る、それから、いわゆる自分で生き抜くための力をつけるためには、我々もそうなんですけど、全ての人たちが、お年寄りをさせば介護予防をしっかりとさせていただく、あとは健康維持、そういうところにもこの自助というのにはつながってくるのかなと思います。

そういうところで、本当に声かけ、いろんな町からのいろんな発信、地区からのいろんな情報の共有、そういうところを今後もっともっと進めていただきたいと思いますし、それがこの自主防災組織というところにもつながっていくというふうに、私なりに解釈をさせていただきました。

そのあたりで、今後、最初のいわゆる川南町経済推進会議だとか、そういうものにも含

めた、こういう自主防災組織に対する会議等も、併せて行ってみたらどうかという提案をさせていただきますが、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

いろんな活動の中で、一番行政、町として、トップとして考えなくちゃいけないというのは、やはり町民の生命に関わることだと思っています。これは、一つミスがあって対応が遅れてということでは、言い訳にもならないんです。

しっかりとそのための準備、備えをして、そして町民の生命を守る。このことは、私も本当は一番に持っていきたいんですけど、意外と町民の方々にも、災害に対する認識というのがまだ浸透しておりません。

ですから、今、自治公民館長を中心に各地区で自主防災組織の設立をお話しさせていただいて、今、何カ所か自主的に自分たちで地域を守るために声も上がってくるようになりました。一番大事なのは、通常で判断できるような災害は、まだ何とかクリアできるんです。でも、想定外の災害、南海トラフというのが非常に問われています。向こう30年内に起こる可能性というのは80%というのが示されています。これは年を重ねるごとに増えるんです。

ですから、間違いなくそういった身近なところに災害が起きるというのは、ですから先ほど中瀬議員も言いました、経済会議の中でも、町民の皆さん全てが災害に対する認識を持っていただきたい。

そのことに関しては、私も一生懸命いろんなところで会合でお話ししていきたいと思っています。一番大事な自助、公助、最後にというのが行政からのということになりますので、まず我が身を守る。

この、まだ川南町は今まで過去大きな災害が起きていないんです。近隣で考えたとしても、非常に安心な町なんです。ですから何が起こるかというのが想定できないんです。でも事が起こったときには、事前の準備がないと対応できないんです。ぜひ自主防災組織のお互いに助け合う。

今、振興班も人と人とのつながりがだんだん希薄になっています。そういった中で自主防災組織ということも含めて、地域は地域で、人のつながりで守っていくんだという、そういった意識を感じてもらえればなと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当にいつ起こるやら分からないこの災害に対して、いかに私たちが想定をしながら、準備を進めていくというところには、本当にみんなが真剣な気持ちになれる何かをつくっていかなくちゃいけないのかなと思います。

また、今後いろいろな形で町内のインフラの整備だったりとか、いろいろ避難箇所、避難経路、そういうところの安全性の担保も含めて、またいろいろな形、いろんな多角面から見た川南町を、また町長を中心にいろんな会議を通して進めていただきたいと思います。

本当に一人一人の命、その重要性というところを認識されていますので、そこはもっともっと推し進めていただきながら、皆さんに伝えていただければと思っております。

最後になりますが、教育の充実というところについて、町政施政方針にありましたが質問させていただきます。

町の活性化や発展には人材育成が最重要と上げられております。その重要性というところの人材育成について、町長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

川南町がよりよい方向にというのは、全て人なんです。人が育つことで、川南町の活性化というのは図れるというのが基本的な考えです。

ですから、人材育成、これは子供様も、学生も、それから大人も含めてしっかりと支援をしていきたい。これが基本的な考えです。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 人材を育成していく中で教育となると、どうしても目が向くのが、いわゆる義務教育だったり、その下から入ってくるかと思いますが、もちろんその義務教育の教育力の向上、そういうところも重要かと思っています。

今の中学校、小学校の中で、そこが決して落ち度があるわけではないとは思っておりますが、まずは小学校、中学校に対して、何かこういうことを今後考えている、教育水準若しくは人材育成につながる何らかのお考えがあればお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

恵まれた環境というのが一番、子供にとっては大事なのかな。子供の成長という過程の中では、いろんなものを受け入れる、そういった機会を様々な学業だけではなくて、いろんな方々のお話を伺ったり、そういった中で優れた方のお話を聞くというのは大事なことだと思っています。そういった外的な。

一番、今、川南町で取り組んでいるのが、地域とのつながり、地域で子供を育てる、キャリア教育というのが、私は、ほかの市町村よりは進んでいるじゃないかな。小学校高学年、それから中学校、様々な町内で活躍されている方々が、中学校、小学校に行かれて子供たちと対話を、自分の経験をもって対話をする。こういったのは一番地域が育てる。地域を愛していただける子供を育てるというのが、一番重要な取組だと思っています。

川南町は非常にそれが進んでいます。でも進んでいるというのは、ただ自己満足の世界ですから、もっと子供たちにいろんなチャンスを与えるべきではないかなと思っています。

それから高齢者の方々に対しても生きがいを持つ、今まで町内で先人たちが築いてきた、その礎をできれば地域の人たちにお伝えする、アドバイザー的な形のというのが、そのことが高齢者の方々の生きがいにもつながると思っています。

ぜひ町内全てで生かす、そういった教育を進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 私も本当に学校の中、教室の中だけで行うのが教育ではないと思っています。この恵まれた環境を、川南町の恵まれた自然あふれる環境、若しくは歴史的にも、いろんな文化にしても、本当に優れた町、そういうところを、まずは子供たちにも、早くから知ってもらい、そういう取組として、町教育委員会が行っているキャリア教育というところにもつながっていくのかな。

そういうのは本当に今後をもっともっと充実を図っていただきたいと思っていますし、体験型の学習を通じたあらゆる分野の人との交流、そこから川南町のよさを早くから知っていただくというところを行っていくのも、一つの魅力というふうに感じております。

いろんな今、町長がおっしゃられたチャンスを、本当に生かしていく。それから学ぶ場を求めていく。それから年代、世代層に沿って生きがいづくりの場の提供をする。いわゆる子供たちだけではなくて、教える側の私たちの世代というところも学ぶべきことを、しっかりやっとなないと、伝えることができないんじゃないかというふうに思っております。

そういう場の提供としては、これも教育課が推進している、高齢者に対するいろんな生涯学習、そういうところにもつながっていくかと思いますが、ちょうど中間層が、そういうところがないんじゃないかなというふうに思います。

いわゆる我々世代は仕事をしながら、いろんなところが難しい部分もありますが、そういうところにとって、川南町の魅力発信をする学ぶ場というところをつくっていただくということは、できないものなのかいうところをちょっと提案させていただきますが、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど、人材育成ということでお話をさせていただきました。人材育成というのは子供だけ、義務教育者だけとは考えておりません。様々な方々が学びの場であったり、というのを考えなくちゃいけない。

ただ、おっしゃるように、そういった世界は今までちょっと手薄だったんじゃないかなと感じています。今後は、いろんな方々がこの川南町で生活する中で、学べる場というのは、今後、教育委員会とも話しながら前に進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 私も、本当にこの川南町を全て知っているかというところ、全くそうではないし、やはり学ぶべきことを、この川南町で住んでいくためには、自分から学ぶということをしていかななくてはいけないのかなと思います。

そこにそういう何かのきっかけとなる場を、提供していただけることも、もっともっとそういう考えを持つ人たちが増えてきて、それが世代、世代でつながって行って、伝承されていくものにもなっていくのかなと思いますので、ぜひ今後ともそういうものは、思い切って発信していただきたいなと思っています。

この最後の質問にはなりますが、この選挙戦でも一つ言われているのが、新中学校統合問題というところが争点に、私たちは議会をただすべき方向に持っていきたいという思い

で、この選挙戦を戦ってきたんですが、なぜか新中学校というところのキーワードが出てきたというのも事実であります。

現時点で、町長が、新中学校どうするのか、中学校統合についても、この町政運営方針の中でもキーワードとして出ていますが、どのように現段階でお考えなのか、お願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

中学校についてという御質問でした。様々な場で、中学校に対する御意見が多種多様、たくさんの御意見がある。今現在、教育委員会のほうでアンケート調査も行って、それを今まとめている段階です。

私の立場とすれば、先ほど教育という中でよい環境というもありましたけど、まず基本的な考えは、教育委員会が考えていること、意見集約したことを尊重する。

本来、川南町内の組織なんですけど、教育委員会も、でも教育に関することに関しては、政治的なというのはあるべきじゃないと思う。教育委員会の示したことをしっかりと支援する。これが私の気持ちです。

それから新しい中学校にということに関しては、教育長のほうで答えをしていただけたらなと思います。よろしいでしょうか。

以上です。

すみません。私のほうに聞かれているわけですから、私から、中瀬議員の質問にお答えします。

先ほど私の考えを申しさせていただきました。いろんな考えがあるんです。アンケートの中にも、いろんなこうしてほしい、ああしてほしい、ここはというような御意見もたくさんありました。

今、教育委員会がそれを精査しております。新たなというか、統合という言葉は前の議員の皆様も、全てが統合はオーケーだと、あとは場所、費用ということだったんじゃないかなと思っています。

統合は早く早急に進めるべきだ。今現在、中学校も子供たちが少子化という中で、1クラス維持というのが大変な状況がある。ですから統合というのは早急に対策しなくちゃいけない。

ほかにいろんな御意見がありましたので、それは教育委員会が精査してます。恐らく近日というか、2カ月ぐらいにはお示しができるんじゃないかなと思っています。お示しいただけるんじゃないかなと思っています。

ですから、そのことを踏まえて、しっかりと教育委員会が、できれば、私、教育に事關することは、いろんな町民の方々も思い、考えがありますが、ぜひ子供にとって、そして私たちができることは何なのか、責務として何ができるのか、これをちょっと大事に考えていただけたらなと思います。答えになってないかもしれませんが、以上です。

○議員（中瀬 修議員） 2年前に振り返りますが、新中学校建設が白紙と、これは議会で議決されたことになりますので、もうどうのこうの言うつもりはないんですが、当時のことを思い返すと、本当に多くの子供たちがもし、たればなんですけど、来年の4月には、新中学校ができていたということで、多くの子供たちが肩を落としているのを本当に目の当たりにしてきました。

そういう中で、今、町長がおっしゃったように、子供たちにとって、何が一番有意義なことなのか、大事なことなのかということを、これから教育委員会を含め、いろんな関係各機関で話し合いが進められていくと思います。

また、私たちの議会の中にもそういう提案が求められてくるのかなと思いますので、そこはしっかりまた精査をしながら審議して、これから進めていく場になっていくかと思います。

さきのアンケートでも、教育課のほうからも回答がありましたが、やはり新中学校を要望する声のほうが大きいということもありましたので、そのあたりを含めて、今後、本当に早急にいろんなことが進んでいくことを熱望しながら、今回の一般質問を終わらせていただきたいと思います。

以上で終わります。

（ 午前10時03分 終了 ）